

超高齢化社会に伴い、地域に必要とされる医療が今、大きな転換期を迎えています。各都道府県は、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向け、地域医療の体制「地域医療構想」をまとめています。県民が等しく最善の医療を享受するために、県内の病院はどう連携していくべきか。2018年に富山西総合病院・富山西リハビリテーション病院(富山市婦中町下櫛田)を新設する藤聖会・親和会の藤井久丈理事長と、県の高度急性期医療を担う富山大附属病院(同市杉谷)の齋藤滋院長が、それぞれの病院の使命について語り合いました。



藤井 久丈氏

ふじい・ひさだけ 1955年富山県生まれ。80年金沢大医学部卒業、85年同大学院卒業。医学博士。89年に医療法人社団藤聖会八尾総合病院院長に就任し、2001年から同会理事長。12年に医療法人社団親和会理事長に就任。八尾総合病院と山田温泉病院4つのサテライトクリニック、5つの老人保健施設などを運営する。



齋藤 滋氏

さいとう・しげる 1955年大阪府生まれ。80年奈良県立医科大学卒業。84年同大学院卒業。医学博士。同大産婦人科助手、同講師、同助教授を経て98年に富山医科薬科大(現富山大)教授に就任。富山大附属病院周産母子センター長、副院長、手術部長を歴任。2016年4月から同病院院長と富山大副学長を務める。

協働で富山の医療を守る

大病院の在り方

藤井 県内医療の中核を担う富山大附属病院のトップを務めていらっしゃる。富山県は、最新の医療を県民に提供したい。そのためには、一人一人の医療に力がいりません。学生教育に加え、研修医育成も大病院の役割です。高度な技術を「教育」を通して若手医師に伝え、県内各地の病院で実力を発揮できるように「技の伝承」をしっかりと行わなければならないと思います。

齋藤 県民の命を守るのが富山大附属病院の務めです。診療レベルを上げ、現代のさまざまな医療技術のスピードに取り残されず、かつ世界をリードするよう高度医療を展開したい。昨年導入した手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」



新病院の特色

齋藤 富山西総合病院・富山西リハビリテーション病院の新設に向けて準備されています。どのような病院を目指しているのでしょうか。

藤井 二つの法人それぞれの病院が隣接しますが、相互に連携し、一つの病院のように機能させます。具体的には救急・手術など専門的医療を担う「急性期病棟」、在宅復帰支援やリハビリテーションを提供する「回復期リハビリ病棟」、難病を含む長期療養を受け入れる「慢性期病棟」、在宅医療中の患者と家族が困ったときにいつでも相談できる「地域包括ケア病棟」などを設け、患者に合わせたケアをワンストップで提供します。地域の方が安心して住み続けるための地域密着病棟として、大病院や地域の医療機関、介護事業所、老人クラブ、民生委員、行政などの連携窓口になり、医療・介護福祉・生活支援をトータルマネジメントします。

齋藤 既に同じような取り組みを始めている八尾総合病院はある意味、富山のモデル事業だと思います。その経験が新病院の構想につながったのでしょうか。

藤井 八尾総合病院は約30年前にできましたが、当時は救急対応と検査、治療が重要で、一つの病棟を一つの病院で治す「完結型」が当たり前の時代でした。しかし高齢化が進むにつれ、生活習慣病やがんなど複数の疾患を抱えながら生活する人が増えてきました。つまり、治療だけでなく、その後の生活支援までトータルに関わることを求められるようになってきたのです。例えば虫垂炎の場合、20代なら手術し、翌日排ガス(おなら)があれば食事再開して数日で退院です。しか

藤井氏「治し支える」医療必要

療介護スタッフを支援する「レスパイト(休息)」機能も必要です。地域の窓口となつて医療や介護のニーズをつなぐ役割を目指したいですね。

齋藤 高度な専門医療や特殊な医療を展開する大病院は富山の「最後の砦」です。オビエオン・テクニカルリサーチであると共に、今後の医療として挑戦すべきことに取り組んでいく立場でもあります。大病院が情熱を持って若手育成に取り組むことは非常に重要です。一時期、大勢の初期研修医が症例数の多い都府の病院に流出しましたが、今は県内に



し、後期高齢者になると手術にはリスクが伴います。さらに術後はリハビリ、場合によっては退院後の介護サービス手配なども必要で、すぐに数週間、1カ月経ちます。そこで15年前に「回復期リハビリ病棟」を、5年前には県内初の「地域包括ケア病棟」を開設しました。高齢化社会において、患者の状況に合わせてワンストップで対応できる機能強化した病院が必要だとずっと考えてきました。

齋藤 大病院はどうしても高度急性期(救命救急や集中治療)が中心で回復期まで手が回らない状態です。信頼できる地域の病院で専門のリハビリを受け、在宅復帰に向けて支援していただければ、私も非常に安心です。

藤井 大病院には高度医療と教育に専念する使命があります。その分、地域の病院がポストアクティビティ(急性期を経過した患者)の受け皿となる役割は大きいと考えます。反対にサブアクティビティ(在宅や介護施設で病状が悪化した患者)を診療し、大病院に搬送し、手術を受ける場合もあるでしょう。在宅医療を頑張っている家族や地域の医療介護スタッフを支援する「レスパイト

病院間の連携

藤井 医療は社会資源だと思っています。大病院のような基幹となる病院、私どものような地域の病院それぞれに使命があります。2025年に向けて新しい医療提供体制「地域医療構想」はその役割をより明確にして連携を強め、急性期から回復期、慢性期、在宅医療、介護まで切れ目のない医療を県民に供給する「協働」システムをつくることではないでしょうか。

齋藤 各医療機関が単一でやる時代は終わりました。今後は特色を持った病院が協働して、患者がより適切な医療を受けられるようにパートナーシップしていく形になるでしょう。ただ、私たちが力では実現しません。県民の皆さんにも病院間の連携について十分理解していただけて良い医療を展開したい。富山に住んだら、医療面でもこんなに安心安全だという形を示していきたいですね。

藤井 もう1点は地域で望まれている医療の充実です。後期高齢者の医療ニーズが増えるため、全てを基幹病院に依存するのではなく、地域の病院も一定程度の急性期医療の能力が必要になります。新病院では今まで力を入れてきた乳がんやがんの放射線治療に加え、心不全などの循環器疾患に積極的に取り組めます。特に心臓は大病院でカテーテルによる大動脈弁置換治療が始まっており、手術後のリハビリや定期的な検査、治療を引き継ぐために、高いレベルに持っていきたい。大学の先生に来ていただくなど

高度医療提供と教育重視

齋藤 その通りなんです。1975年に富山医科薬科大(現富山大)が誕生して40年余り、県内の病院で活躍する卒業生の人材が着実に育ち、大学と一緒に若

藤井 高度な専門医療や特殊な医療を展開する大病院は富山の「最後の砦」です。オビエオン・テクニカルリサーチであると共に、今後の医療として挑戦すべきことに取り組んでいく立場でもあります。大病院が情熱を持って若手育成に取り組むことは非常に重要です。一時期、大勢の初期研修医が症例数の多い都府の病院に流出しましたが、今は県内に

藤井氏 医療スタッフの交流を

期待

齋藤 時代と共に病院の在り方は変わります。従来の考え方だけでなく、ニーズに合わせた新しい一歩を踏み出すことが大切です。現在の八尾総合病院は医療ベッド数は減りますが、地域密着病棟というスタンスで地域を支える医療・介護福祉・生活支援をさらに充実させていきたいと思っています。また、新病院では若手医師を中心に、進めたい医療、自分がやりたい医療にも存分に取り組んでもらいます。大病院と連携して技量を磨く場をつくることで、若手医師の「Uターン」を促進したいですね。

藤井 新病院ができる2018年から、新しい協働体制が始まるというところで、県民の皆さんに期待していただきたいですね。我々も人材育成を含め、協力させていただければと思います。

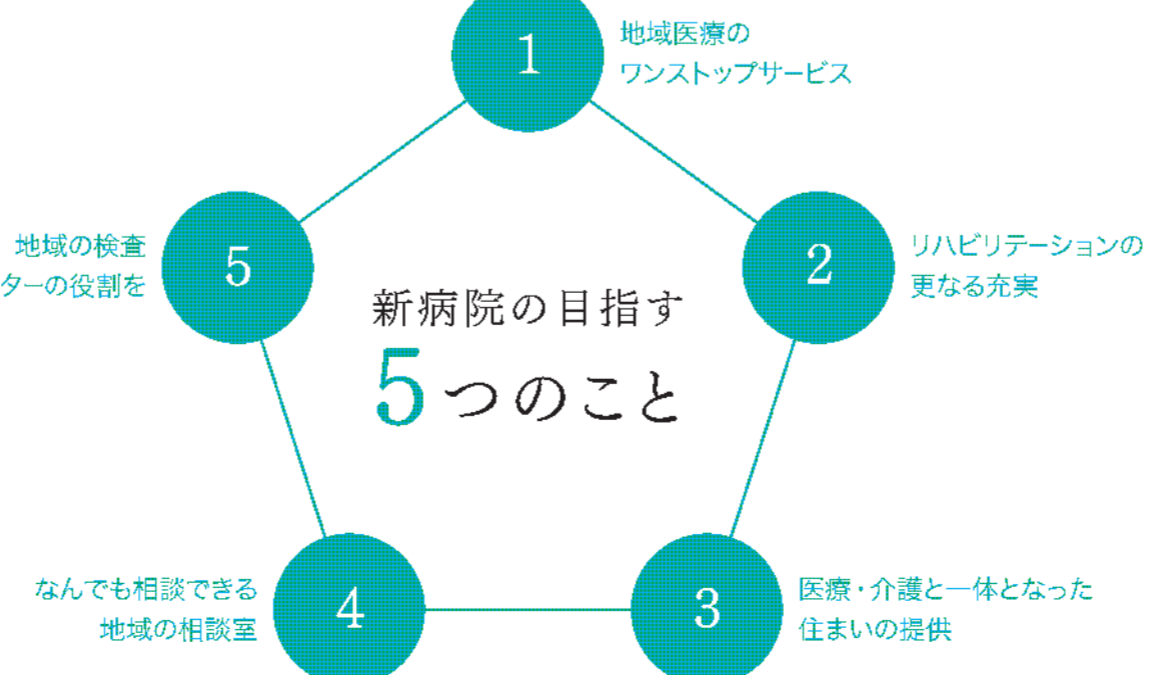
新しい協働体制に期待

齋藤 大学開設時の理念は、県民のために貢献できる医療人を育てることです。若手だけでなく、中堅の医師や看護士にとっても魅力ある病院づくりに努めたい。そのためにライフワークバランスの問題や妊娠・出産における女性医師のサポート体制、医師の適性に見極めなどにも真摯に取り組む、大学としての責務ある医療人の養成に務めていきたいと思っています。

藤井 時代と共に病院の在り方は変わります。従来の考え方だけでなく、ニーズに合わせた新しい一歩を踏み出すことが大切です。現在の八尾総合病院は医療ベッド数は減りますが、地域密着病棟というスタンスで地域を支える医療・介護福祉・生活支援をさらに充実させていきたいと思っています。また、新病院では若手医師を中心に、進めたい医療、自分がやりたい医療にも存分に取り組んでもらいます。大病院と連携して技量を磨く場をつくることで、若手医師の「Uターン」を促進したいですね。

地域に寄り添う新たな医療拠点 2018年、婦中町に誕生

住み慣れた地域で自分らしい生活を、人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・住まい・生活支援を、日常生活圏域で提供する「地域包括ケアシステム」。これを支え、地域に寄り添う病院が「富山西総合病院」と「富山西リハビリテーション病院」です。



藤聖会グループ
医療法人社団 藤聖会
〒930-2876 富山市八尾町深尾2-42 TEL.075-454-5806 FAX.075-453-3233
医療法人社団 親和会
〒930-2165 富山市山田118 TEL.075-467-2333 FAX.075-467-2334

新病院で地域を支える医師を募集しています
腎臓内科(人工透析)、神経内科、呼吸器内科、総合診療科 他
詳細は <http://toyama-nishijp> をご確認ください

企画制作/北日本新聞社営業局